

## 図書館と電子図書館

白鷗大学発達科学部教授

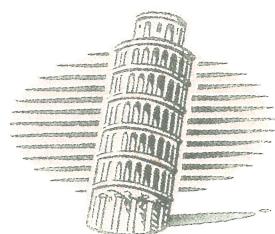
小原政敏

昭和30年（1955年）代前半、第二次世界大戦後の経済成長が軌道に乗り始めテレビ放送が開始された頃であった。情報化社会の先駆けとしてテレビは普及しつつあったがまだ一部の家庭や電器店の店先で視聴するような状況であった。当時の中学生にとって新しい知識が得られるのは、毎月発売される子ども向けの雑誌などを読むことが主なものであり、学校の図書室に行くことも知的な刺激を得られる貴重な機会であった。学校の図書室で見た絵画全集にある写真のように描かれたルネッサンス期天才画家達の絵が印象的であった。フランスやイタリアの観光旅行で美術館を訪れ中学生時代に図書室の絵画全集で見た絵画の現物に出会ったとき、中学時代の記憶が蘇るとともに忠実な写実によりこのような絵画の完成に生涯をかけた画家達の執念を感じた。二次元の平面に写実的な立体感を出そうとして苦心した画家達の状況をガイドの説明により理解できた。映像の電子化も進み、今ではインターネットでも多くの絵画を鑑賞できる。しかし、私が中学生時代に写真のように感じた絵が電子化された映像として示されるとき紙の絵画集と同様の印象を得られるのか疑問である。電子化された画像は、技術的な制限によって記録容量もディスプレイの表示容量も紙上の印刷とは異なっているからである。もちろん印刷物も本物と同様の情報を示すことはできない。

物理の基本的な現象である落下運動について、ガリレオがピサの斜塔から重さの異なる二つのおもりを落下させて、物体が落下するとき重さに関係なくどの物体も同じ速さで落下する

ことを示したと言われている（ガリレオは斜面の実験と思考実験で落下の法則を発見したものと考えられている）。ピサの斜塔は有名な建物なので、図書室にある建物の写真集や百科事典で傾いた円筒形の不思議な建造物の写真を探すのに苦労はしなかった。数年前にピサの斜塔を訪れ、斜塔の上まで円筒の建物の内側にある螺旋階段を登って屋上に立つことができた。階段の石はこれまでの多数の観光客の靴に踏まれ、流水に削られた岩のように数センチも磨り減っていた。子どもの頃図書館の本で知った歴史的な建物の上に立って、ガリレオと同じように下を見下ろすと、ここから物を落とせば何の邪魔もなく真下の緑の芝生に落ちることを着想することは当然のような気がした。私もポケットの硬貨を落としてみたいという衝動にかられた。ガリレオの伝記を書いた弟子のヴィヴィアーニもこの屋上に立ったとき、私と同じような衝動を感じて、ガリレオがここから重さの異なる二つのおもりを落下させて落下の法則を証明したという物語を思いついたのは自然の流れのように思われた。今では、ピサの斜塔の写真はインターネットに無数に掲示されている。撮影の角度や技術によって同じ斜塔でも様々な印象を受ける。電子化された情報の多様性はありがたいが、どれを信頼すればいいのか判断することが難しいことがある。

調べたい本を自宅近



くの図書館に探しに行ったがなかったので、インターネットで探すと本の名前は出ているのだが内容までは調べられなかった。そこで図書館の職員にお願いして他の図書館にあることを確認していただいた。その図書館に出掛け、目的の本を調べることができた。しかし、その本は苦労して探したにもかかわらず、私の期待していた内容ではなかった。このような事はこれまで何回かあったが、参考にしたい本を直接調べができる図書館は有り難い施設である。

時代が進み、テレビやインターネットを活用すると、本を用いなくとも世界中から多くの情

報を得ることができる時代となった。しかし、インターネットで調べた内容にはときどき消化不良のような感覚が残ることがある。図書館に出掛けることは面倒でも、本を調べた内容から得た情報は安心感をともない美味しいものを食べた様な気がする。省エネや環境問題から情報の電子化が課題であるが、これからも紙のぬくもりのある図書館の充実と活用を心がけたいものである。

参考文献 新訳ダンネマン大自然科学史（402/DA）  
安田徳太郎訳・編 三省堂  
プリタニカ国際大百科事典（031/BR）  
TBSプリタニカ

## 積ん読（つんどく）

白鷗大学法学部講師  
白 石 智 則

研究室に学生が来ると、よくこう質問される。「たくさん本がありますよね。これ全部読んだですか？」

正直に答える。

「読んでないよ。」

もちろん、本を買うときは全部読むつもりで買っている。そして、読まなければならない本や読みたい本から順次読んでいる。しかし、読む本よりも買う本の方が圧倒的に多いのだから、読んでない本は年を追うごとに増えていく。最近では新刊本でも古本でもネットで手軽に買うことができるので、この傾向はさらに加速する。

「読めないのでしたら買わなければいいじゃないですか？」

ごもっとも。本を買うにはお金がいる。本を集めれば場所をとる。お金や場所のことを考えれば、読まない本なんて買うべきではない。本当に読むときに買うか借りるかすればいいのだから。

でも私は少しでも欲しいと思ったら迷わず買うことにしていて。そして、すぐに読まない本はただ本棚に並べるか、机の上に積み重ねておく。なぜ読みきれない量の本を買うのかといえば、それは、私が大学に入学して間もない頃にある先生から聞いた次の言葉を固く信じているからだ。

「大学生になったからには、できる限り本を買

いなさい。喫茶店でコーヒーを飲んだり、煙草を吸ったり、ギャンブルをしたりするお金があるなら、それを我慢して本を買いなさい。読みきれなくてもいい。ただ積んでおく、『積ん読』だけでもいいのです。」

幸い、私は喫茶店にいく習慣をもたなかったし、喫煙もギャンブルもしなかったが、やはりお金には不自由していた（よく飲みに行っていたせいか？）。だけど、本代だけはけちけちしないと心に決めて本を買い続けた。その結果、10年間の学生生活で、十分な数の本を読むことはできなかったが、十分な数の本を積むことはできたと思っている。

この「積ん読」という言葉、私は長い間この先生の造語だと思っていたのだが、調べてみると辞書にも載っている有名な言葉であった。ただ、本を読まずに積んでいるだけでは意味がないという否定的なニュアンスで使われることが多いようである。では、「『積ん読』だけでもいい」とはどういうことなのか？先生はそれ以上のことを教えてくれなかつたので、自分なりに積ん読の効用を考えてみた。

まず、積ん読をしておけば、「買っておけばよかった」と後悔することがない。とくに専門書の類は、発行部数が少ないものだからすぐに絶版となる。そのとき欲しくなってもう遅い。いつ読み始めるかわからないし、もしかしたら

一生読まないのかもしれないが、読もうと思えばいつでも読めるという安心感、これは何物にも変えがたい。逆に、「買わなければよかった」と後悔することもあるが、その場合は本を見る目がなかった自分が悪い。授業料を払ったつもりで割り切ればいい。

次に、積ん読でもその本の内容をある程度は知ることができる。本を購入すれば、少なくとも最初はその本をパラパラとめくる。身近に積んでおけば、いやでもその本の表紙や背を何度も目にすると。だから、作者が誰でタイトルが何でだいたいどういうことが書いてあるのかは自然とわかるようになる。ただそれだけであるが、何も知らないよりはましである。

最後に、あまり大声でいえることではないが、積ん読で投資をすることもできる。絶版になつたら値が上がると思われるような新本や、古本屋で偶然見つけた希少本など、後で売って儲けるために投資目的で購入しておくのだ。私の場合、投資目的で買った本も結局は愛着がわいてほとんど売ることはないのだが、ある友人はこの方法で結構な額のお小遣いを稼いでいた。

積ん読の効用、皆さん納得していただけただろうか？もちろん、積むにせよ積まないにせよ、多くの本を読むことが一番大切であるのは言うまでもない。私がここで言いたいのは、たとえ読むことができずに積んでおくことになったとしても、買った本は無駄にならないということである。

大学の教員にはこの積ん読の爱好者がとくに多い。諸先輩方に比べれば私なんてかわいいものの。ある先生は本の重みで家の床が抜け、またある先生は本の山が崩れて怪我をした。そして、積ん読中毒の私の恩師、トイレから階段まで家中のいたるところを本棚で埋めたがそれでもスペースが足りないと、ついには近所に本を置くための家を買ってしまった（しかもローンで）。やはり師には遠く及ばない。



## ■ ■ ■ 図書館ニュース ■ ■ ■

### 図書館ホームページ上の【パーソナルサービス】を利用してみませんか

パーソナルサービス

利用者番号:

パスワード:

#### ● 利用者番号

- 学部生・院生 → 学籍番号  
教職員 → 教職員証番号

#### ● パスワード

- 初期パスワードは図書館で設定します。  
ログイン後、パスワードの変更をしてください。

#### こんなことができます

- ・ 購入希望図書の申し込み
- ・ ILL (図書館間相互協力) サービスの申し込み
  - ☞ 当館に所蔵がない資料を国内外の他大学の図書館から借り受けたり、必要な部分の複写入手することができます。  
(※本学に所属する教職員と学生が対象)
- ・ 利用状況の確認
  - ☞ 貸出状況、予約状況、購入申込状況  
ILL 依頼申込状況、貸出履歴
- ・ 図書の取寄せ (本館 ⇄ 分館)
- ・ My Library
  - ☞ 個人専用のバーチャルな書棚 (ブックシェルフ)  
に、メモ書き・感想などを登録することができます。

■ ご利用には申し込みが必要です。図書館カウンターで随時受付中 (9:00~17:00)

〈学生エッセー〉

## デキル奴らの秘訣

白鷗大学大学院法務研究科修了生  
益子久志

勝ち組（死語かな？）の人生を送ろうと思ったら、学生時代にできるだけ本を読んだほうがいい。

大学生時代にはこんなことは考えもしなかったけど、社会人やって、大学院を卒業した今では、そう思っている。「自由に時間を使える大学生時代に、もっと本を読んでおけばよかった」と。

デキル奴は、とにかく色々な本を読んでいる。何が言いたいかっていうと、教養（知的武装と言ってもいい）がある奴のほうが、仕事ができるし、出世もしやすいってこと。

といっても、自分が大学生の頃は、漫画しか読んでなかつたから偉そうなことは言えないが（今でもスピリッツとモーニングは欠かせない）。

自分もそうだったけど、図書館に足を運ばない学生は、単なる「読まず嫌い」なんじゃないか、読書が嫌いな人って、読書＝勉強みたいに考えているんじゃないかな、って思う。だけど、はっきり言って、これは間違い。勉強するには読書って必要だけど、すべての読書が勉強ってわけではない。

とりあえず、「読書なんて遊びだ」と考えてみたらいい。勉強でない読書であれば、極端な話、「わからなくてもいい」んだから。最初は漫画だっていい。最近の漫画は内容が難しくて、哲学的要素も含まれてるし（読んでも意味がわからない漫画が増えたともいえる）。「カバチタレ」なんて法律の勉強にもなるから一石二鳥だし。

わからないことをするなんて無駄、と考える人もいるかもしれない。では、わからないことはやらない、との姿勢を貫いたらどうなるか。わかる範囲のことしかやらない人間に進歩はないって思わないか。

わからなくても、とにかく読み進む。飛ばし読みでも拾い読みでも可。「こんなこと考えている人もいるんだなあ」程度でOK（この辺は漫画を読むときと同じ感覚で）。で、同じ分野の他の本を読む。どういうわけか、以前には理解できなかったところが理解できたりする。しかも、この方法は、法律の勉強にも応用できる。ある本で理解できなければ、別の本を探して読んでみる。同じ分野の説明でも、著者によつて、説明の仕方が随分違うものだと感じたりもする。で、自分にとって最も理解しやすい本の記述をメモしておけば、試験で良い点が取れるはず。

この経験の積み重ねが「読書」だと考えている。

こんなふうに言うと、「結局、たくさん読まなくちゃならないじゃないか」という苦情があるかもしれない。だから、遊びだと思って気軽に読んでみたらいいと思う。「バイトで稼いでも遊びまくってたら、そんなに色々な本は買えない」って苦情もくるかもしれない。だから、図書館があるし、タダで利用できるってことに、気づいてもらいたい。

まだ、間に合うよ。社会人になったらそんな暇ないんだから。

### ささやき

館内にて、“図書館活用術”や“パスファインダー”を配布しています。ぜひ、ご活用ください！

パスファインダー…あるテーマを調べるのに役立つ資料や情報への道しるべ



新着図書は、HPでチェックできます。

平成18年10月20日 発行

図書館だより編集委員会

白鷗大学総合図書館

〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117

(0285)22-9737 (直通)

ホームページ http://www.hakuoh.ac.jp/library/

印 刷 株式会社尚文堂印刷所